

## 1995年度堀内基金奨励賞の受賞者決まる

**受賞者:** 竹内謙介 (北海道大学低温科学研究所)  
**業績:** 西太平洋大気海洋相互作用 (TOGA-COARE) 研究計画を中心とした熱帯大気海洋結合系の研究

**選考理由:** 1985年から10年間の予定で始められた TOGA (熱帯海洋・全球大気) 計画は、気象学と海洋物理学が対等の立場で共同研究を行う最初の研究計画であった。この研究の実施にあたっては、背景の異なる分野間で発生する諸問題を解決する必要に迫られていた。

竹内謙介氏は、東大海洋研助手時代には、主として海洋観測に従事し、北大理学部助教授時代には、数値モデルによるエルニーニョの研究を行っていた。この間、フロリダ州立大学に留学した関係で、TOGA 計画には初期から参加することになった。

1986年から始まった「気候変動国際協同研究計画」では、日本とオーストラリアとの間の XBT 観測を実施するなど観測面での貢献を行った。また、1987年の科学技術庁緊急研究「エルニーニョの観測研究」では、短時間の内に観測計画を立案・実施し、熱帯域の大気海洋観測の先駆けとなった。これらの研究計画の実現

は、後の日本における TOGA 計画の進展に決定的な影響を及ぼした。

その後、海洋科学技術センターを中心とする JAPACS, 及び文部省「新プログラム」による日本の TOGA-COARE (J-COARE) の研究計画が推進されることになった。この赤道域で行われた大規模な気象学と海洋物理学との共同観測計画において、竹内謙介氏は海洋物理学側のリーダーとして関連研究者を指導し、研究計画の実現に努力した。異なる分野にまたがる共同研究に内在する困難な問題を解決しつつ進められた日本の TOGA-COARE 計画の成功は竹内謙介氏による海洋物理学サイドの取りまとめに負うところが大きく高く評価できる。

その後の成果の取りまとめに関しても、大気海洋相互作用における最重要課題の一つである「赤道域における海洋表層の熱収支」に関しての海洋力学的な考察を積極的に進め、その成果の一部は気象集誌の「TOGA-COARE 特集号」に掲載され、今後の一層の発展が期待される。

よって日本気象学会は今年度の堀内基金奨励賞を贈るものである。